

ピカイチ先生の  
生活経営セミナー

2018年11月  
自律分散の時代  
(③ 避難背生活と家庭)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038  
福島県南相馬市原町区日の出町167-3  
info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

# 人間にとって教材は過去にしかない

「2008年に起きたリーマン危機や、2011年の東日本大震災のような危機は、また起こると思いますか？」

すると、ほとんどの人が起こると思うほうに手を挙げます。

「ここに2つの企業がありあす。ひとつの企業は、リーマン危機や東日本大震災の経験は、将来何かの役に立つかもしれないからと、徹底的にその経緯を勉強しておこうと考えた。

もうひとつの企業は、情報化技術は日進月歩だし、パソコンはスマートフォンに替わって、ウェアラブルになるとか、次々と変化していくのだから、昔のことを勉強しても参考にはならない。かえて固定観念が入ってしまっただけで対応を難しくすると思う。だから学習しないことに決めた。

この2つの企業が新たな危機的パニックに直面したとします。どちらの企業がうまく対応できると、あなたは考えますか？」

この質問に対しても、だいたい8割前後の人が勉強した企業のほうに手を挙げます。もちろん講演会場ですから、よく考えたり検討したりする時間のない状況での判断です。手を挙げたみなさんも、確たる自信があったわけではないのでしょう。しかし逆に、ほとんどの人は次のことを直感的にわかっているのだと思います。

「将来、何が起こるかは誰にもわからないけれど、悲しいかな、教材は過去にしかない」

『仕事に効く 教養としての「世界史」II』 (2016.10.10 出口 治明)より

# 避難生活（リビング兼仕事部屋）



# 避難生活（息子の勉強部屋）



# 避難生活、6か月の歩み

## 避難生活

- 3/14 避難準備
- 3/15 福島県伊達市保原の体育館
- 3/16 福島県会津若松市の知人宅
- 3/17 群馬県館林市の親戚宅
- 3/18～3/31 東京の親戚宅を転々
- 4/1～4/8 新潟県上越市の体育館(避難所)
- 4/9～8/31 上越市の教員住宅(避難所)
- 9/1～9/17 上越市の教員住宅(借上住宅)
- 9/18 帰宅

# 「衣・食・住」はどうしたか？

## 【衣服】

- 移動中：購入 → **現金が必要**
- 避難所：支援物資、洗濯機供用

## 【食事】

- 移動中：自腹 → **現金が必要**
- 避難所：弁当・果物・飲料 → 偏食・飽き

## 【住居】

- 体育館
  - 畳、●布団、▲プライバシー(4世帯×8班)、▲銭湯
- 教員住宅(避難所)
  - 風呂、▲ガス、▲洗濯、●折畳卓、▲固定電話
- 教員住宅(借上住宅)
  - 風呂、●ガス、●家電セット、●布団、▲光熱費補助

# 「医・職・充」はどうしたか？

## 【医療】

- 通院：医療費・薬代は無料
- 持病：保険証、処方箋

## 【就職】

- 収入：自営業(東電補償) → **現金が必要**
- 信用：確実な支払(自動引落)

## 【充実】 子育て(息子高3・娘中3)

- 高校：県管轄、学力レベルで選択
- 中学：市(区)管轄、居住地で決定

# 「現金」はいくら必要か？



3/11

いくら必要？



3か月



【減少】食費・学費  
【増加】衣類・雑貨・携帯通話  
【同額】ガソリン・新聞

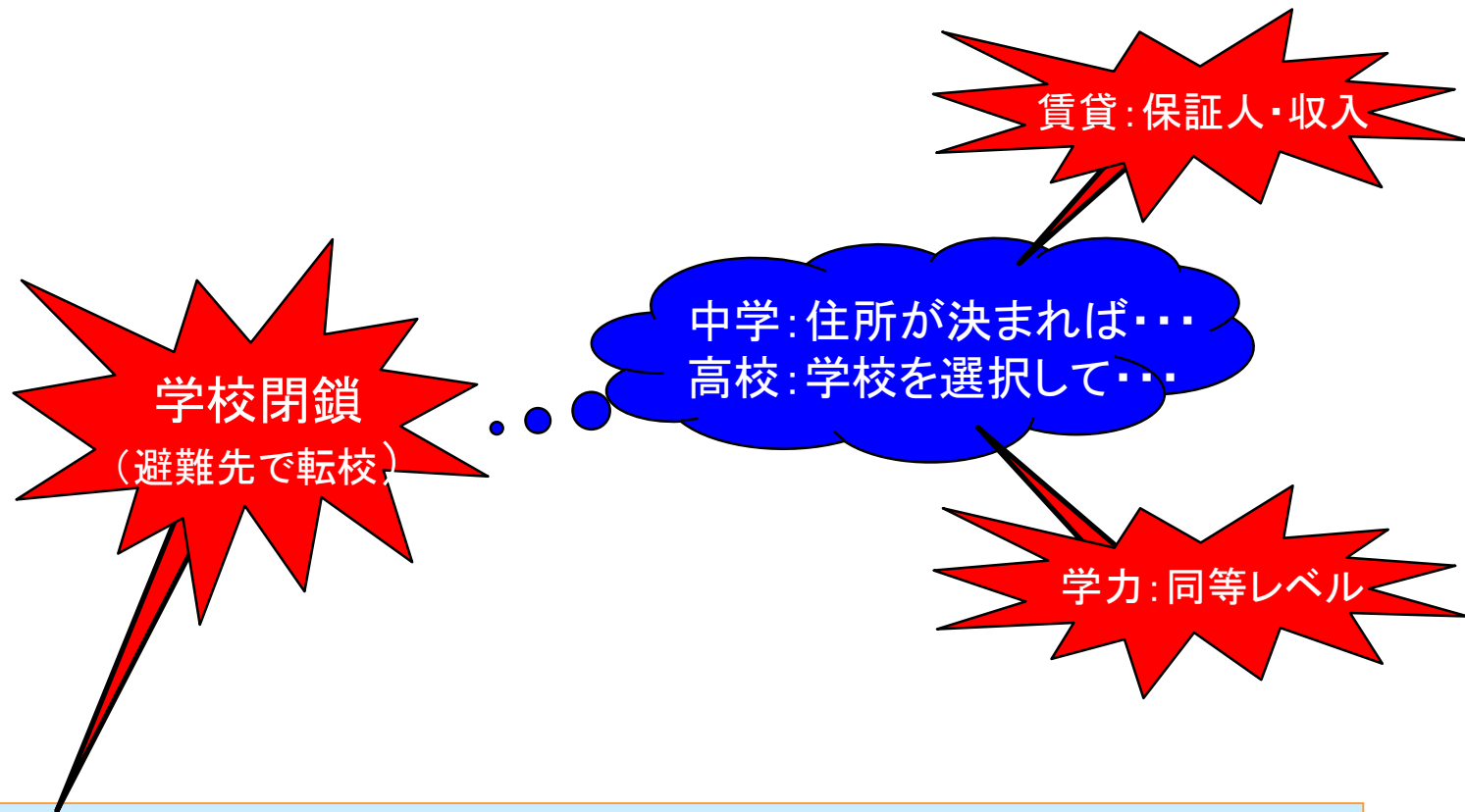
- 5/24 40万円(義援金)
- 5/30 100万円(東電仮払い)
- 8/23 120万円(東電仮払い)
- 8/24 88万円(義援金)

生活費:20万円/月 ⇒ 23万円【3万円増】

- 生活費=23万円×3か月=69万円
- 一時出費=15万円(テレビ、電子レンジ、ホットプレート)
- 合計=84万円



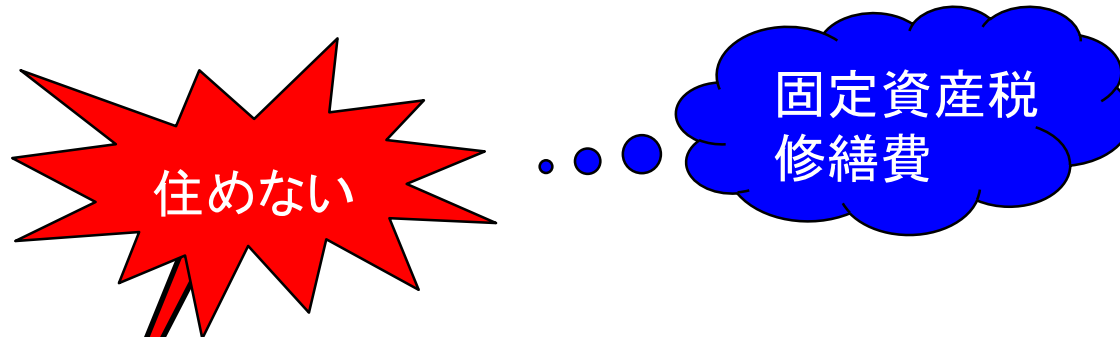
# 「学校」はどうなったか？



## 【充実】子育て(息子高3・娘中3)

- 高校：県管轄、学力レベルで選択
- 中学：市(区)管轄、居住地で決定

# 「マイホーム」は「負債」となった？



## 【住居】

### ■ 体育館

● 畳、● 布団、▲ プライバシー(4世帯×8班)、▲ 銭湯

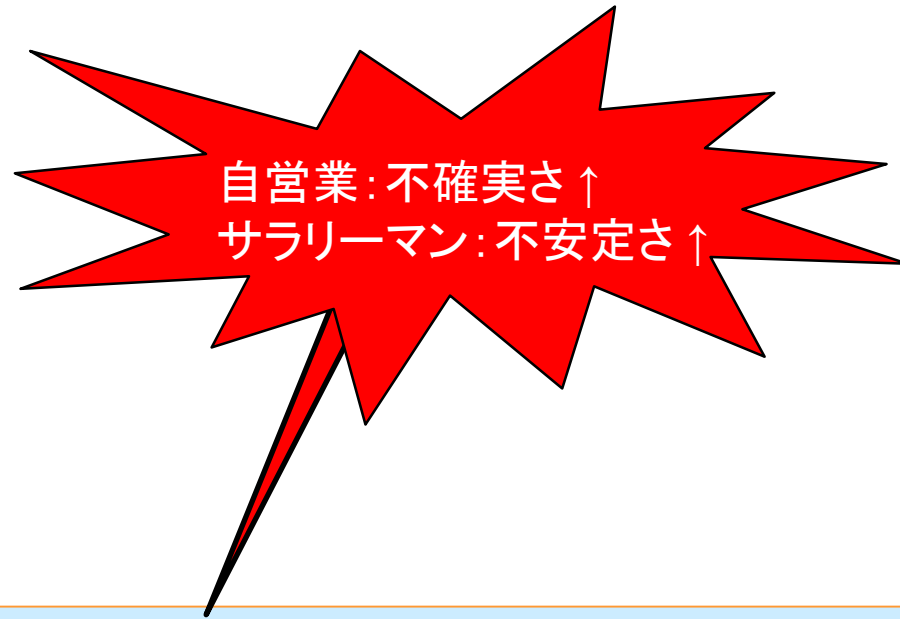
### ■ 教員住宅(避難所)

● 風呂、▲ ガス、▲ 洗濯、● 折畳卓、▲ 固定電話

### ■ 教員住宅(借上住宅)

● 風呂、● ガス、● 家電セット、● 布団、▲ 光熱費補助

# 「職」はどうなったか？



売上減  
避難先で決済

避難先で再就職  
OR  
自宅で単身赴任

## 【就職】

- 収入：自営業(東電補償) → **現金が必要**
- 信用：確実な支払(自動引落)

# いつの世も人は逃げ出せる自由が欲しい (1/2)

20世紀には、世界連邦政府をつくろうという考え方がありました。国際連盟や国際連合という発想、エスペラント運動という国際共通語づくりなどがその一例です。

そして世界連邦政府をつくるのが、戦争をなくし、世界をユートピアに変える一番いい方法だと考えられていました。しかしいまでは、それはむしろユートピアの逆で、デストピアをつくることだという考え方が主流になってきているように思います。

それはなぜか。

仮にどれだけすばらしい世界連邦政府ができたとしても、その統治形態や社会形態になじめない人は存在する。そういった人たちが亡命できる余地がなくなるじゃないか、という考え方が根底にあります。

人間の自由の中で、逃げ出せる自由という権利は決して小さくありません。

歴史的に見れば、人はみな嫌な政府、悪い政府から逃げ出してきたのです。いまだったら、自分の生活している国が嫌なら住む場所を変えればいい。たとえば日本人でもシンガポールや香港に逃げ出す人が現に存在します。

(次頁につづく)

『仕事に効く 教養としての「世界史」II』(2016.10.10 出口 治明)より

# いつの世も人は逃げ出せる自由が欲しい (2/2)

でも世界連邦政府が設立して、世界がひとつになってしまったら、人間のできることは植物のように置かれた場所で、自分を咲かせるしか他に方法がなくなります。

すなわち世界連邦政府をつくったら戦争がなくなるからそれでいい、という素朴なユートピア思想は、自国が嫌いになったり政治亡命を余儀なくされた人にとってはデストピア思想に過ぎないのではないか。

戦争の世紀であった20世紀を経験して、そのような考え方が強くなったのではないか。僕はそう思います。世界の多様性のほうがはるかに大切なのです。

人間、土壇場に来たら尻をまくってどこかへ逃げ出せばいい、そういう逃げ出せる自由がないと、なかなかしんどいのですね。世界を画一化されたひとつの国にするのではなく、正しい意味での諸国の自立が求められているのだと考えます。

『仕事に効く 教養としての「世界史」II』 (2016.10.10 出口 治明)より